

# 2019 北陸東海近畿土を考える会 総会研修会

2019年3月28日

去る3月6日に北陸東海近畿土を考える会の春季研修会・総会が開催されました。研修会のテーマは、「ロボットトラクター」。近年は北海道だけでなく府県でもGPSガイダンスや自動操舵を導入する経営体が増えています。今回、実演会場を提供くださった㈱サンフレッシュ海津(岐阜県海津市)の高木健一社長は大区画圃場を造成され、自動操舵を利用した作業体系を構築されているお一人です。21名の農業者と関係者を合わせて30名余りが参集し、2台のロボットトラクターによる実演を見守りました。

クボタの「アグリトラクタSL60A」は、テレビドラマ「下町ロケット」が放映されて以来、問い合わせが急増しているそうです。リモコンによる遠隔指示でロータリー作業をしたり、止まったり、運転席に人が乗車しない自動運転作業を実演しました。また、ヤンマーアグリジャパンの「YT5113A」が実演したのは、アルペゴの「ミックスロータリー」による耕うん作業です。いずれも圃場の端に設置したGPSの基地局とトラクターに搭載されている移動局による位置情報を利用していますが、センサやカメラなど独自の技術で制御されています。その後、スガノ農機の新型スタブルカルチの実演、㈱アグコントロールシステム広田氏よりGPSレベラーの紹介が行なわれました。

この日の参加者からはロボットトラクターをいまずぐ導入したいという声は聞こえてきませんでしたが、GPSが農業現場に当たり前の技術になっていることを実感した研修会となりました。とはいえ、農業機械が大好きな会員さんにしてみれば、見える範囲に立ってリモコンで操作するよりは、トラクターに乗ってみたいというのが本音でしょうか……。天気も何とか実演会終了までもったことに安堵して、情報交換会が行なわれるホテルへ移動しました。

情報交換会では、近年の混乱期に会長を務めてきた前田喜芳会長らを労ったり、近況を報告し合ったりと、賑やかな雰囲気が出た夜まで続きました。翌7日に総会が開催され、新たな規約が採択され、高木会長、尾崎大作副会長、今井敏副会長率いる新役員体制が承認されました。なお、当日の様子は下記の動画をご覧ください。



MOVIE



前田喜芳会長

